

立命館大学アート・リサーチセンター  
 文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点  
 「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際研究拠点」  
 2020年度 国際共同研究成果報告書〔研究費配分型〕

2021年 5月 6日 提出

1. 研究課題名	
京都を起点とした染色技術及びデザインのグローバルな展開に関する研究 (英文課題名) Research of Kyoto-based Global Development of Printing Techniques and Designs	
2. 研究代表者	
氏名 (ふりがな)	所属機関・職名
上田 文 (うえだ あや)	関西学院大学 非常勤講師
3. 研究分担者 (合計: 6名)	
氏名 (ふりがな)	所属機関・職名
並木誠士 (なみきせいし)	京都工芸繊維大学美術工芸資料館 館長
青木美保子 (あおきみほこ)	京都女子大学 教授
鈴木桂子 (すずきけいこ)	衣笠総合研究機構 教授
杉浦未樹 (すぎうらみき)	法政大学・教授
山本真紗子 (やまもとまさこ)	立命館大学・授業担当講師、京都精華大学非常勤講師
加茂瑞穂 (かもみずほ)	嵯峨美術大学、京都精華大学非常勤講師

4. 研究課題の概要 (300字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点分かるように明記してください)
本研究課題では、近代京都を起点として染色産業がどのように国内外へ展開されてきたのか、あるいは影響を受けてきたのかを染色技術やデザインを通じて明らかにする。そのために、学術資料として俎上に上がっていない近代染織史に関連する資料の整理・蓄積を進め、伝統的地場産業と位置付けられてきた京都の染織が実はグローバルな展開—近代以降の西洋技術・デザインの導入だけではなく、戦前から始まるアジア・アフリカへの製品輸出・海外事業展開も含む—をしてきたことを明らかにする。また、研究対象となる染色資料を整理してデータベース構築を進め、近代染織史研究者が研究利用し易いデータベースのあり方について工夫・検討する。更に、当該データベースを活用して染織資料の情報を一元化することを目指す。染色産業の国内外への展開については、特にアフリカンプリント、バティック、ヨーロッパでの機械捺染等の基礎調査とデジタル化を進める。

<p>5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)</p>
<p>1.開催予定であった展覧会「キモノからインテリアへー住空間を彩った機械捺染」がコロナの影響で延期(次年度へ繰越となった)</p> <p>2.資料調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アレワテキスタイルズの調書リスト確認</li> <li>・西村庄治商店の近代染織資料の調査、撮影</li> </ul> <p>3.長江家所蔵染織関連資料デジタル化プロジェクト</p> <p>4.研究成果の出版:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・並木誠士・上田文・青木美保子『近代図案帖 寺田哲朗コレクションに見る、機械捺染の世界』青幻舎、2020年4月</li> <li>・加茂瑞穂『ニッポンの型紙図鑑』青幻舎、2020年4月</li> <li>・前崎信也・山本真紗子編『MADE IN KYOTO 京都の匠:世界を変える日本の伝統工芸』IBCパブリッシング、2020年6月</li> <li>・加茂瑞穂「染色デザインの近代化」(pp.21-44)・鈴木桂子「機械捺染とデザインに見る越境性」(pp.125-149)、『きものとデザイン』(島田昌和編)、ミネルヴァ書房、2020年5月</li> </ul> <p>5.国際ワークショップの開催: Dutch Textiles in Global History: Interconnections of Trade, Design, and Labour, 1600-2000、2021年3月11日、12日、オランダ・コトレヒト大学・法政大学・立命館大学の教員によるオンライン共催。本研究課題のメンバー3名が発表。</p>
<p>6. 研究業績 (日本語以外に英語名称もあるものは、できるだけ日英両言語でご記入ください)</p>
<p><b>著書</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 並木誠士・上田文・青木美保子『近代図案帖 寺田哲朗コレクションに見る、機械捺染の世界』青幻舎、2020年4月</li> <li>・ 加茂瑞穂『ニッポンの型紙図鑑』青幻舎、2020年4月</li> <li>・ 前崎信也・山本真紗子編『MADE IN KYOTO 京都の匠:世界を変える日本の伝統工芸』IBCパブリッシング、2020年6月</li> <li>・ 加茂瑞穂「染色デザインの近代化」(pp.21-44)・鈴木桂子「機械捺染とデザインに見る越境性」(pp.125-149)、『きものとデザイン』(島田昌和編)、ミネルヴァ書房、2020年5月</li> </ul> <p><b>研究論文 査読有</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 並木誠士「和歌浦図研究一名所風俗図・試論」『デザイン理論』(意匠学会誌)76号、pp.7-20、2020年7月</li> <li>・ 並木誠士「地方美術館打造的新美術史」『世界、東亜及多重的現代視野 台湾藝術史進路』(黄蘭翔編、国立台湾美術館刊)pp.225-260、2020年12月</li> <li>・ 加茂瑞穂「友禅協会「伊達模様」の募集とその周辺ー明治後期・京都における流行創出との関わり」『デザイン理論』77号、pp.69-83、2021年2月</li> </ul> <p><b>研究論文 査読無</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上田文「土田麥僊 大道弘雄宛書簡ー大阪朝日新聞記者と国画創作協会をめぐってー」・加茂瑞穂「京都高等工芸学校が明治期に収蔵した画譜及び図案集の履歴ー産業界から教育機関へ」・青木美保子「近代京都のロウケツ染ー鶴巻鶴ーによる藤纈の復活とその後の展開ー」『芸術の価値創造ー京都の近代からひらける世界』2021年3月出版</li> <li>・ 加茂瑞穂「図と言葉による意匠ー『武器訓蒙図彙』と『女用訓蒙図彙』」『文化・情報の結節点としての図像ー絵と言葉でひろがる近世・近代の文化圏』2021年3月刊行</li> </ul> <p><b>発表</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上田文「土田麥僊ー『金の表現』をめぐる考察ー」美術史学会西支部11月例会、於ノートルダム女子大学(オンライン発表)、2020年11月21日</li> <li>・ Keiko Suzuki, “Global Entanglement of Textiles: Chintz, Batik, Katagami, and 'African Prints' on the Move, 1800-2000,” International Online Conference <i>Transoceanic Connectivity as Maritime Landscapes</i>, co-organized by Research Center for Area Studies, Indonesian Institute of Sciences; and International Joint Digital Archiving Center for Japanese Art and Culture (ARC- iJAC), Art Research Center, Ritsumeikan University, 2021年1月18日</li> </ul>

- Keiko Suzuki, “Kimonos” and their Inspired Products as Embodiments of Global Interconnectivity.”\*
  - Miki Sugiura, “The Netherlands, Britain and the Worsted Textile Market in Japan, c1850-1880.”\*
  - Aya Ueda, “Dutch Textile Designs and Japanese African Prints, 1950s-1980s.”\*
- \*上記3発表は、いずれも国際ワークショップ『Dutch Textiles in Global History: Interconnections of Trade, Design, and Labour, 1600-2000』(2021年3月11日・12日にオランダ・ユトレヒト大学・法政大学・立命館大学の教員によるオンライン共催)にて発表。